

6324 ハーモニック・ドライブ・システムズ

長井 啓 (ナガイ アキラ)

株式会社ハーモニック・ドライブ・システムズ社長

受注増に対応するため生産能力増強を急ぐ

◆2017年3月期決算概況

執行役員 上條 和俊

連結売上高は300億69百万円と、ほぼ予想どおりの着地となった。前期比では売上高、利益とも過去最高額を更新し、主要用途全般で順調に推移している。営業利益は、グループ全体で工場操業度の高い状態が続いているため残業代や臨時ボーナスなどの人件費が増加したこと、ドイツ持分法適用会社の買収に伴う費用が発生したことにより若干予想を下回った。設備投資は、穂高工場のライン新設投資に加え、松本市で新しい工場用地を取得したことなどにより、こちらも過去最高額となった。

主要グループ各社の業績は、アメリカのハーモニック・ドライブ・エルエルシーがドルベースで増収増益となったものの、円高により円ベースでは減収減益となった。精密遊星減速機を製造しているハーモニック・エイディ、およびドイツのハーモニック・ドライブ・アーゲーは好調に推移している。

単体業績も増収増益を維持した。用途別売上高では、半導体製造装置は前工程装置やウエハ搬送ロボット向けを中心としたデバイスメーカーの積極投資により、大幅に増加した。FPD製造装置では、液晶に加えて有機EL関連の案件が増加している。産業用ロボットでは、自動車の溶接および塗装向けは安定、またスマートフォン・タブレット以外の産業にも裾野が広がったことで季節変動幅が縮小している。石油掘削関係は、原油価格の悪化もあり、ゼロベースに近いところまで調整した。単体営業利益は、増収の影響により16億78百万円増、限界利益率の変化により70百万円減、製造固定費その他費用の増加により7億47百万円減、販管費の増加により2億6百万円減となった。

連結総資産は、ドイツの持分法適用会社ハーモニック・ドライブ・アーゲーを子会社化した影響により大幅に増加し、877億34百万円となった。連結負債は、資金調達に係る借入金等が増加し、また、特別利益計上により自己資本が増加した。

◆2018年3月期業績予想

売上高は495億円(前期比64.6%増)、営業利益は120億円(同53.6%増)の大幅な増収増益を予想している。

今期は前第4四半期に受注した膨大な受注残を抱えてのスタートとなっており、上期は各工場フル生産で受注残の消化にまい進する。下期については不透明な部分も多いが、小型ロボット向け受注が全体を牽引し、買収したドイツ子会社も奏功して堅調に推移すると見込んでいる。

設備投資については、穂高工場の生産能力増強に取り組んでおり、松本での工場建設計画、連結子会社となったドイツのハーモニック・ドライブ・アーゲー分を合わせて、過去最高の85億円を予定している。

主要グループ各社については、アメリカのハーモニック・ドライブ・エルエルシーでは半導体、医療機器、人協調ロボット、ハーモニック・エイディではモーターメーカー向けギアヘッドやロボット、中国子会社の哈默納科(上海)商貿有限公司では中国に製造拠点を持つ欧州大手ロボットメーカーからの需要、今期より連結するドイツのハーモ

ニック・ドライブ・アーゲーでは産業用ロボットや人協調ロボット等が、それぞれ引き続き売上を牽引し、増収増益を見込んでいる。ハーモニック・ドライブ・アーゲーを子会社化したことによる増収としては、欧州地域での売上高 127 億円が予想され、内部取引として消去される部分を差し引いても 100 億円以上の純増が見込めると考えている。

一方、単体業績においては、産業用ロボットを中心に前第 4 四半期から受注残が累積している。これに対応すべく生産能力増強を急いでおり、売上高は前期比 34.6%増の 360 億円の大幅な伸びを予想している。製品群別に見ると、ロボット需要が力強く、それに伴って波動歯車装置ハーモニックドライブ®の売上が急伸、また、半導体や液晶も好調で、精密遊星減速機、メカトロニクス製品も増収が見込まれる。用途別では、前工程を中心に装置メーカーやウエハ搬送ロボットメーカーからの需要が強い半導体製造装置、有機 EL 向けの需要が旺盛な FPD 製造装置、ロボット用途の拡大やスマートフォン関係設備投資で急伸している産業用ロボット、モーターメーカー向けギアヘッド等が好調に推移すると見込んでいる。石油掘削装置はゼロベースまで落ちているが、若干改善の兆しが見られる。受注残には産業用ロボットを中心にリードタイムの長い先行発注分も含まれているため、今後の受注動向の予想は難しいが、全体的に FA 業界の需要は底堅く、売上は堅調に推移すると見ている。単体営業利益は、増収の影響で 51 億 32 百万円増、限界利益等の変化で 2 億円減、製造固定費等の増加で 15 億円減、販管費の増加で 7 億円減となり、前期比 41.6%増の 93 億円と予想している。

◆世界 4 極体制の確立

社長 長井 啓

このたびドイツのハーモニック・ドライブ・アーゲーを買収したことにより、日本、アジア、米国に欧州を加えた世界 4 極体制を確立することができた。

ハーモニック・ドライブ・アーゲーはフランクフルト郊外のリンブルグに拠点があり、ヨーロッパ全域のほか、イスラエルやインド、ロシアもテリトリーとしている。欧州の有力ロボットメーカーを顧客基盤としているだけでなく、欧州大手航空機メーカーなどの航空産業も含めて各産業にバランスよく顧客を有している。また、買収によるシナジー効果だけでなく、欧州で「ハーモニックドライブ®」の商標使用が可能となったのも、買収に伴う大きな意義であった。今後は、管理会計の統一や研究開発・販売での協調体制を強化し、同じ品質の製品を世界中どこからでも供給できるグローバル生産体制をより強化していきたい。

世界 4 極体制により、売上規模は、欧州が約 120 億円、アジアが 40～50 億円、日本が約 200 億円、米国が 40～50 億円の規模となる。産業用ロボットの販売台数は今後も 13%程度の成長が予測されており、4 極体制で拡大する顧客ニーズに対応していきたい。

生産体制については、日本国内では当社、ハーモニック・エイディ、ハーモニック・プレジジョンおよびウインベルの各社が、メカトロニクス製品、波動歯車装置、精密遊星減速機、クロスローラーベアリングなどを生産している。現在の月生産能力は 6 万台だが、2 交替制の実施により 7 万台程度可能である。ドイツのハーモニック・ドライブ・アーゲーは遊星減速機以外を生産し、月生産能力は 1 万台、アメリカのハーモニック・ドライブ・エルエルシーは主に波動歯車装置ハーモニックドライブ®を中心に生産し、月生産能力は 2,000 台、韓国では精密遊星減速機を月産 1,000 台程度生産している。今後、日本から海外子会社への生産ノウハウや技術の移転を進めることで、2020 年 3 月期の月生産能力、日本 10 万台、ドイツ 3 万台、アメリカ 1 万台、韓国 3,000 台を目指す。

また、開発体制についても日本・欧州・米国の 3 極体制が整い、新素材、潤滑、応力解析などの共通テーマに対して協調して取り組んでいく。アメリカにはシリコンバレーオフィスを開設して新機構の減速機に係る調査・研究を進めるなど、今後も 3 極協力して世界規模での開発・情報収集に努めていきたい。

◆更なる成長を目指して

2017年1月以降、受注が急激に増加している。特に産業用ロボットの組み立て搬送用ハンドリングロボット向けの需要が旺盛で、スマートフォンの組立・検査工程向けや、欧州では人協調型ロボット向けの引き合いが強い。半導体製造装置ではVR用途向けをはじめ3D NANDが増加し、FPD製造装置では液晶に加えてOLED(有機EL)の設備投資関連が活発に動いている。

これらの需要に対応するため、生産能力の増強が現在喫緊の課題である。昨年4月に竣工した穂高工場の新工場棟には新ラインの設備増強投資を行っており、さらに松本市にも工場用地を取得済みである。松本市の新工場はクロスローラーベアリングを月産10万台生産可能とする予定であり、穂高工場を補完する新たな製造拠点としても活用していく。

当社グループの基本事業は減速機、モーター、ドライバー、センサー、コントローラーなどの要素であるが、今後は新素材や新機構をはじめ、需要を先読みしていく。

現行の中期経営計画は今期が最終年度で、売上高の着地予想は495億円である。長期ビジョンでは2020年に500億円を目標としていたため、予定より早く目標を達成できる見通したが、これは短期的好況によるものである。ロボット市場は今後も成長が続くと予想されるが、売上高500億円を安定的に継続できる体質を構築していかなければならない。当面の課題は生産能力の拡大だが、競合や市場変動に対応していくためにも、永年の信頼や高品質といったことは当然のことながら、今後は用途の多様化や新機構・新素材等に対するたゆまぬ研究開発が不可欠と認識している。

(平成29年5月19日・東京)

* 当日の説明会資料は以下のHPアドレスから見ることができます。

<https://www.hds.co.jp/ir/event/accounts/>